



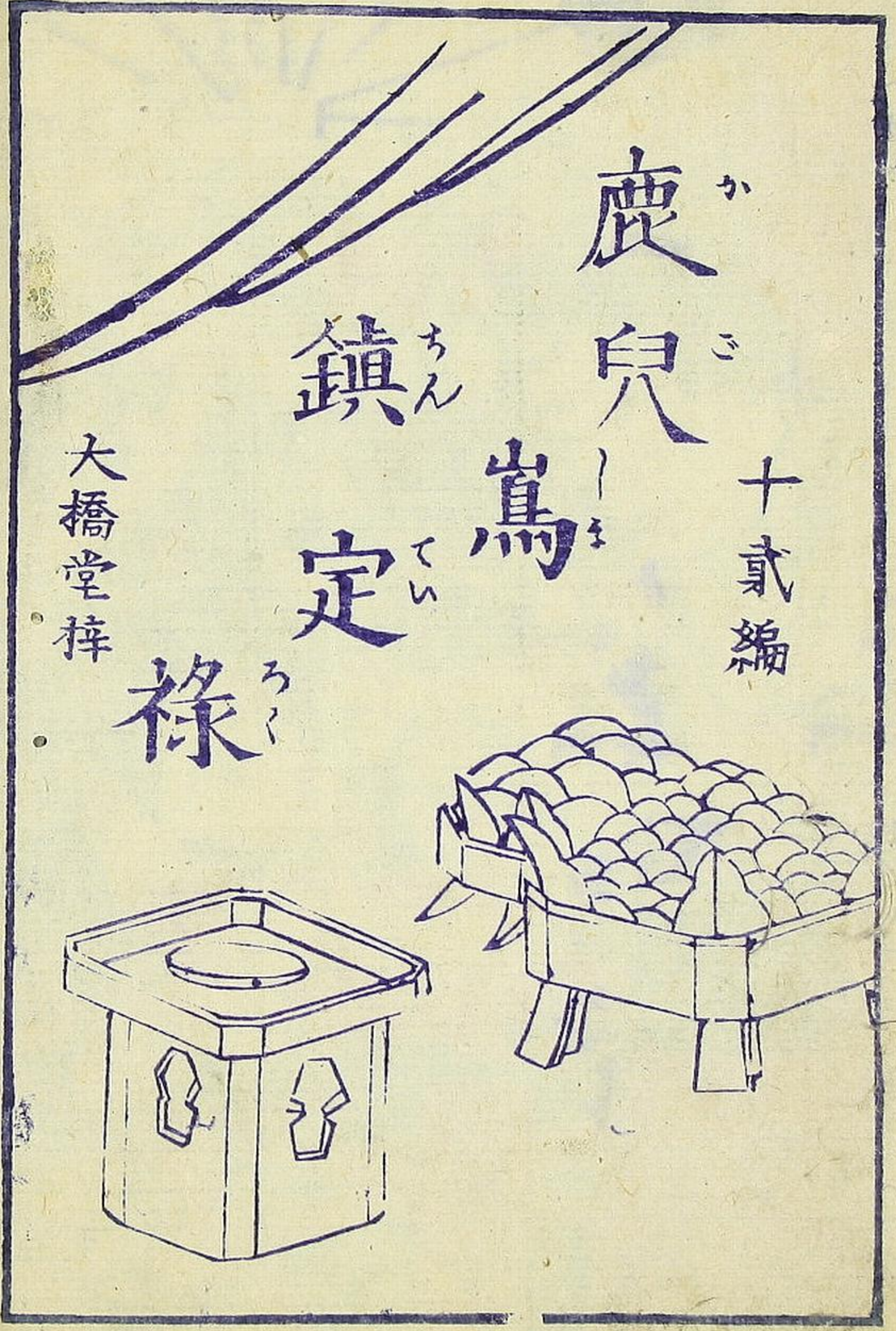
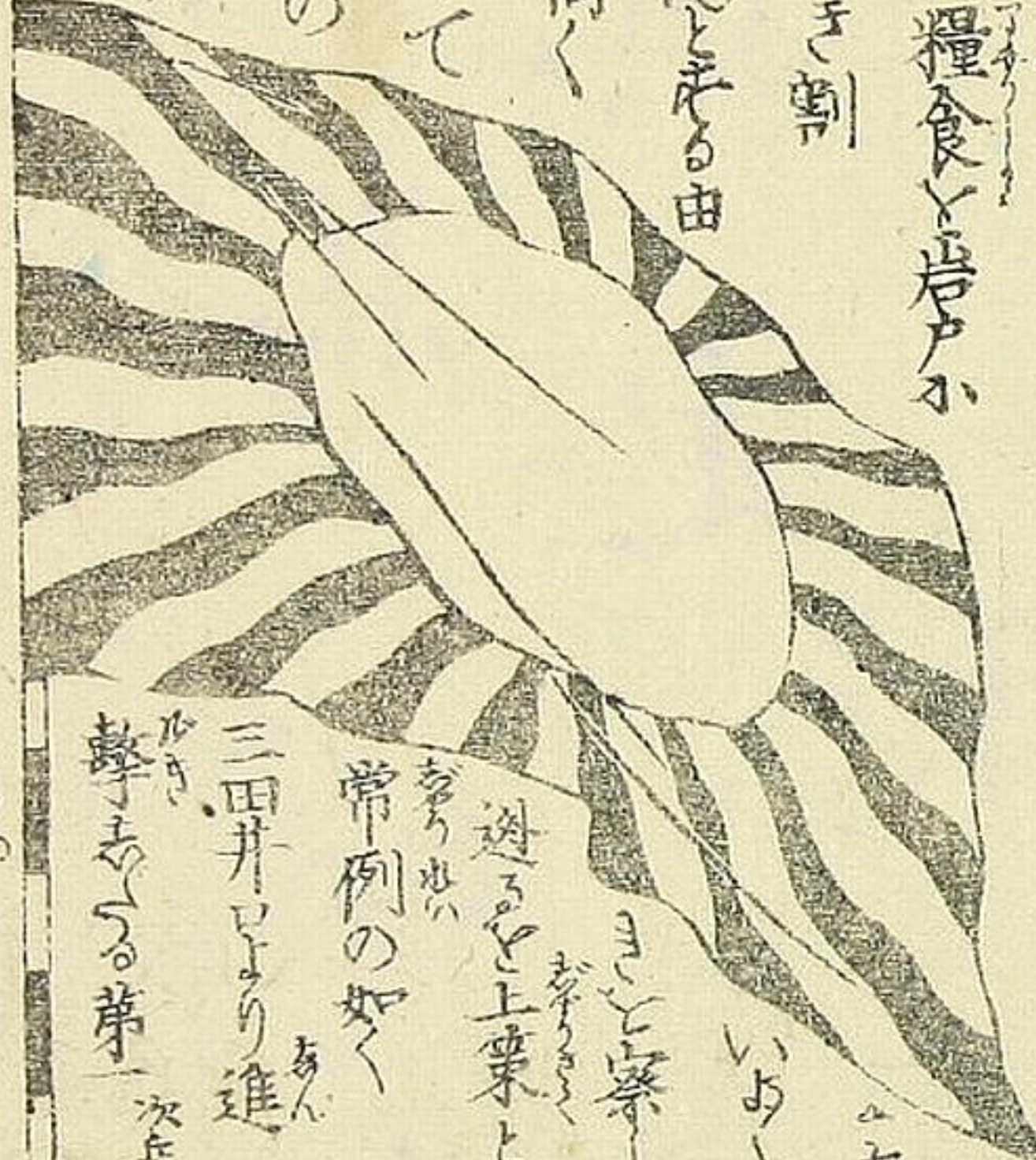
賊將隆盛延岡と回復せんと鋭と修して屢々抗戦と試とす其由
 其詮あく官軍の為ふ之撃つて目的と達し之より更不方向と
 轉して日向の三田井不出糧食と岩戸
 運ひ押方小臺場と築き割
 直に肥後馬見原不出んとする由
 抑三田井近辺へ連山高く
 備へ日向國の北隅ありて
 肥後の阿蘇郡豊後の
 直入郡小接一押方殊
 小險要の地をまき
 爰不暫く防戦
 隙を得ば肥豊の地不
 入らんとの策あるを。

如何ある激戦の
 曾我少將

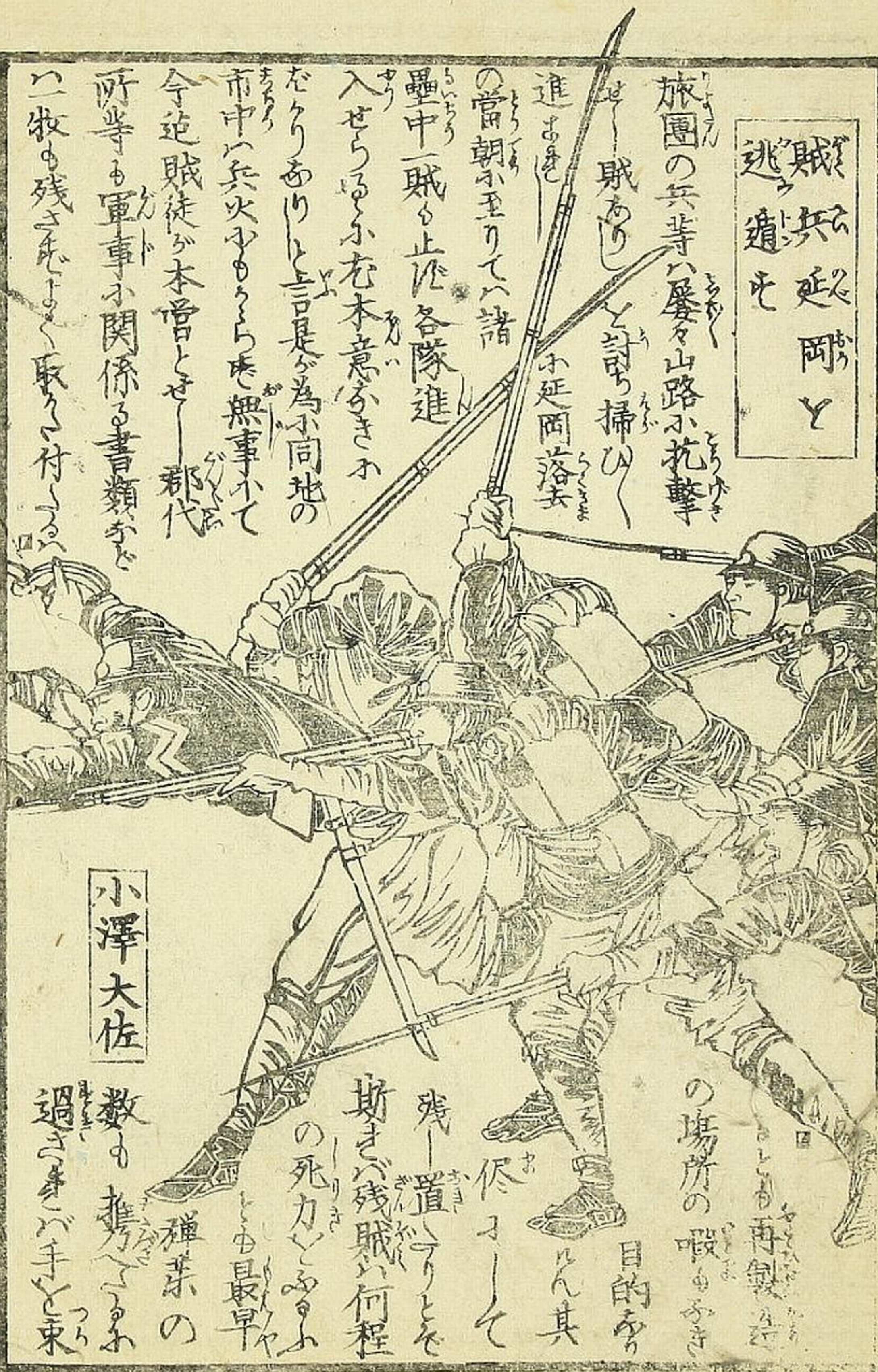
三田井より進
 撃する第

常例の如く
 過ぎる上策とせん

左不あらは
 いよ其防を難
 目と察し鋭と避て



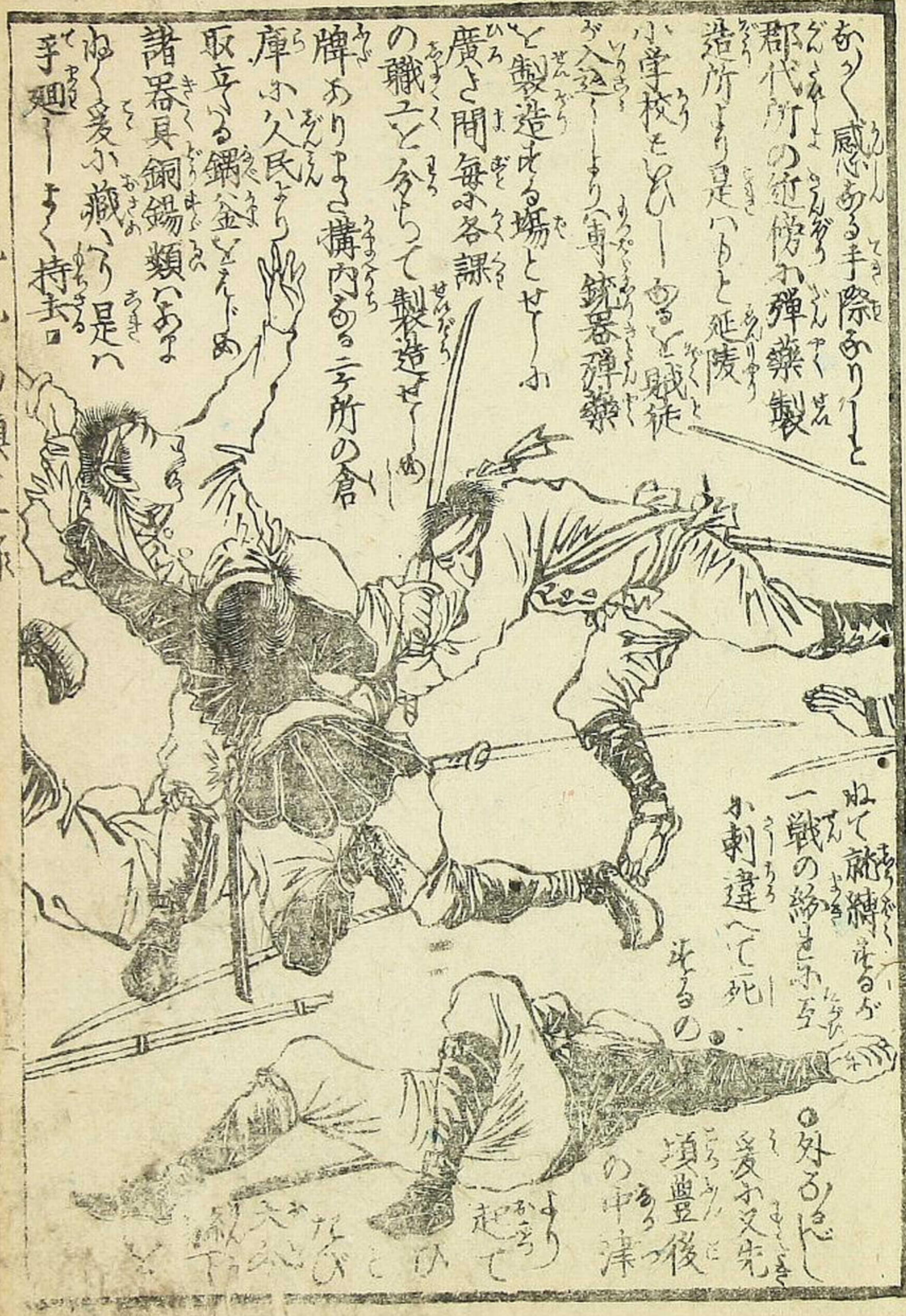
賊兵延阿
逃遁也



旅團の兵等ハ屢々山路ヲ抗撃
進モズ 賊あり 討ち掃ゆ
の當朝不王りてハ諸
壘中一賊も止テ各隊進
入せらるる小本意なきハ
をくりありト云是ハ為小同地
市中ハ兵火少ムラモ無事ナ
今迄賊徒ハ本管トモ 郡代
所等も軍事ハ関係する書類
ハ牧も残さずト取付

の場所の暇もなき
目的あり 其
残一置りて
斯まハ残賊ハ何程
の死力もあらず
最良
彈薬の
数も奪へず
過き身ハ手ト束

小澤大佐



かしく感ある手際ありト
郡代所の道傍ハ彈藥製
造所ト是ハもと延陵
小學校トモト 一ハ 賊徒
ハ入テ 専銃器彈藥
製造ハる場トセハ
廣と問毎各課
の職之と分ちて製造セ
牌ありトハ構内ハ三所の倉
庫ハ父氏トシテ
取立ハる鋼金トシテ
諸器具銅錫類ハあり
ゆゑ小藏ハ是ハ
手廻トシテ持去

取て就緒ハるが
一戦の紛々ト互
ハ刺違へて死
するの
外ハは
受取又先
頃豊後
の中津
起

騷擾せし賊の
巨魁増田宗太郎
官軍の為に攻破ら

谷少將千城



後其踪跡もさ
るあらむと聞
るが薩賊
と同日
日向地方
有りと覚
し去七月
首とふ

一砲の何方をか貫
きけんあつと言獄
真逆様小傍の衆
轉ひ落まは二三發
連射して薩首
おたつて其死骸と
爰ふ彼所と探索
ふ重傷を負は
なる其踪跡
ハ認と身と日記



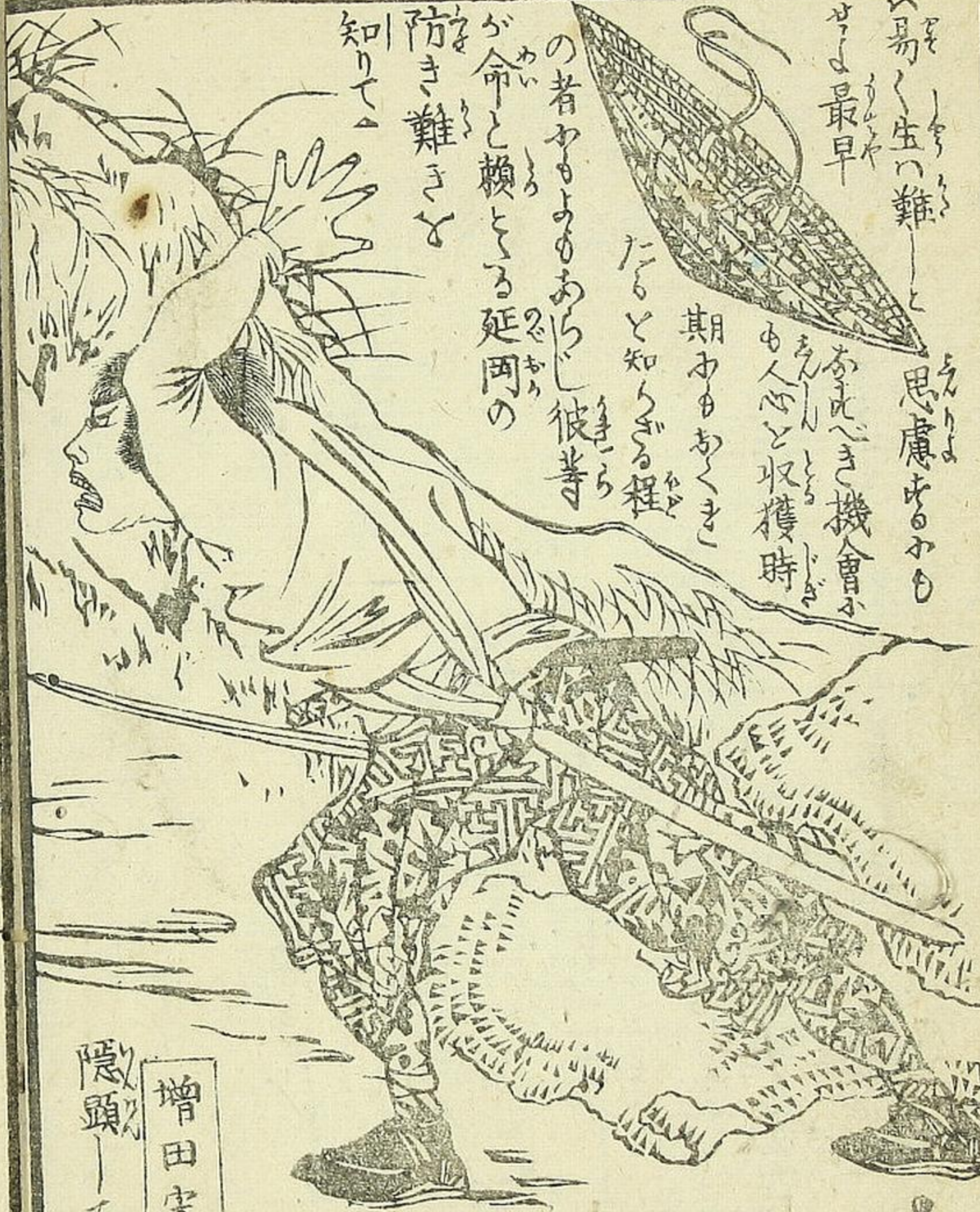
山の
戦身
お進と列
纏ひ小笠小面と隠し山路
と過るあやの者が長刀とま
帯たる小笠八賊の一人あらや
降伏せよ如何々と聲と
縣水曲者へ竹笠取て遙小投
降伏をせよと可笑しと打笑ひつ長刀と
はらりと扱て跳り縣をば打留まとの一聲

田宗太郎とばさ
證據のありし
西郷桐野以下の賊將
今日逆右小遊
左小遊きて幾
千もなき餘金
も不審なる事ふま
官輝の谷隊
延岡と進入す

易く生ひ難く思慮するおも
最早 期あもあくま
あはへき機會
ゆ人心と收獲時

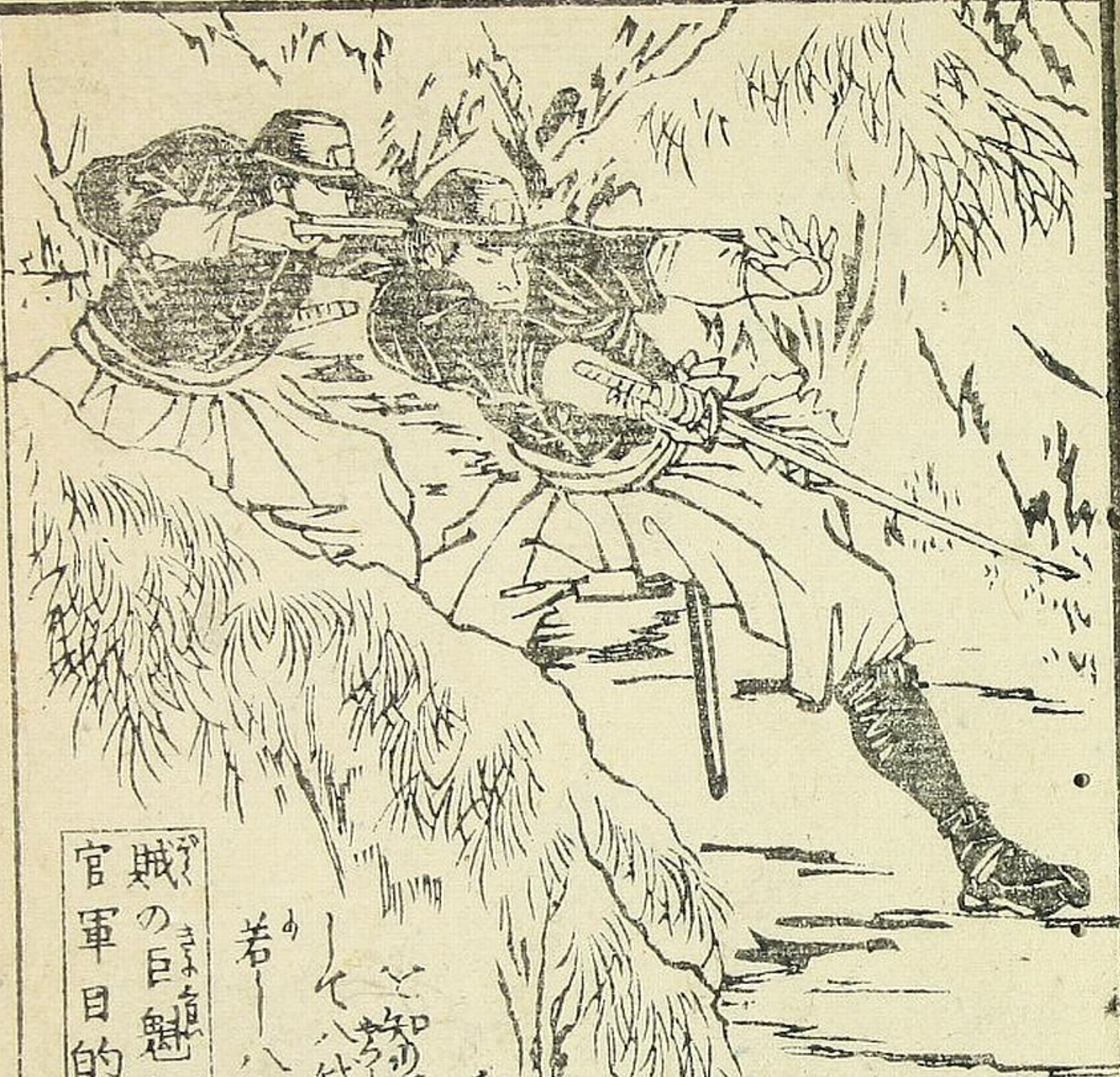


の者やもあもあらじ彼等
が命と頼とする延岡の
防ぎ難まよ
知りて



増田宗太郎
隠頭して隆盛ハ

疾く兵
引揚
山と超
裕と涉
り三果
熊田辺
不出没
胡麻山
奈須辺



死と決なる精兵
三百人
引率
最初ハ
肥後の
人吉へ衝

其目的の達し難き
守兵守禦の嚴
て出んと思ひ
若一八代も仕損ト云ひ死か
知つて方向替へふと申在
て八代郡も突へらんと決議
賊の巨魁と山路不
官軍目的
一撃入て其地

歴代天皇御代

賊軍等撃出る 最期と
地と服議あせ

せん議論半ハ決り時
兵の中ハ異議と生ハ人吉
八代へ撃て出るハ道と山間
お取て勢の多少と知くあめは假合
官軍嚴重守りたりとも万が一其
目的と達せん事必
私学堂

いあーも言難けまことまの
叶ぬ小勢とあつて再なる
庶兒嵩が衝入ちとの
軍議お於てお不
服不候おを斯各



或ハ胸よ
り腹と
割あど
其慘
状いも
不恩を
ざる体
ありハ
実ハ紙上
書くも推
知せり爰
又去明治

の目的不達
ハ一向達論

心生中として
隠れる小てハ毛
頭おまき

証據
不死
て見せ申さんと

違論の輩

二平西郷隆盛

餘人が思ひハ
憤死せハ或ハ
檢斬て自首と



七年佐賀暴
動巨魁江藤
新平の
甥ハ

唐景崧、金定、金

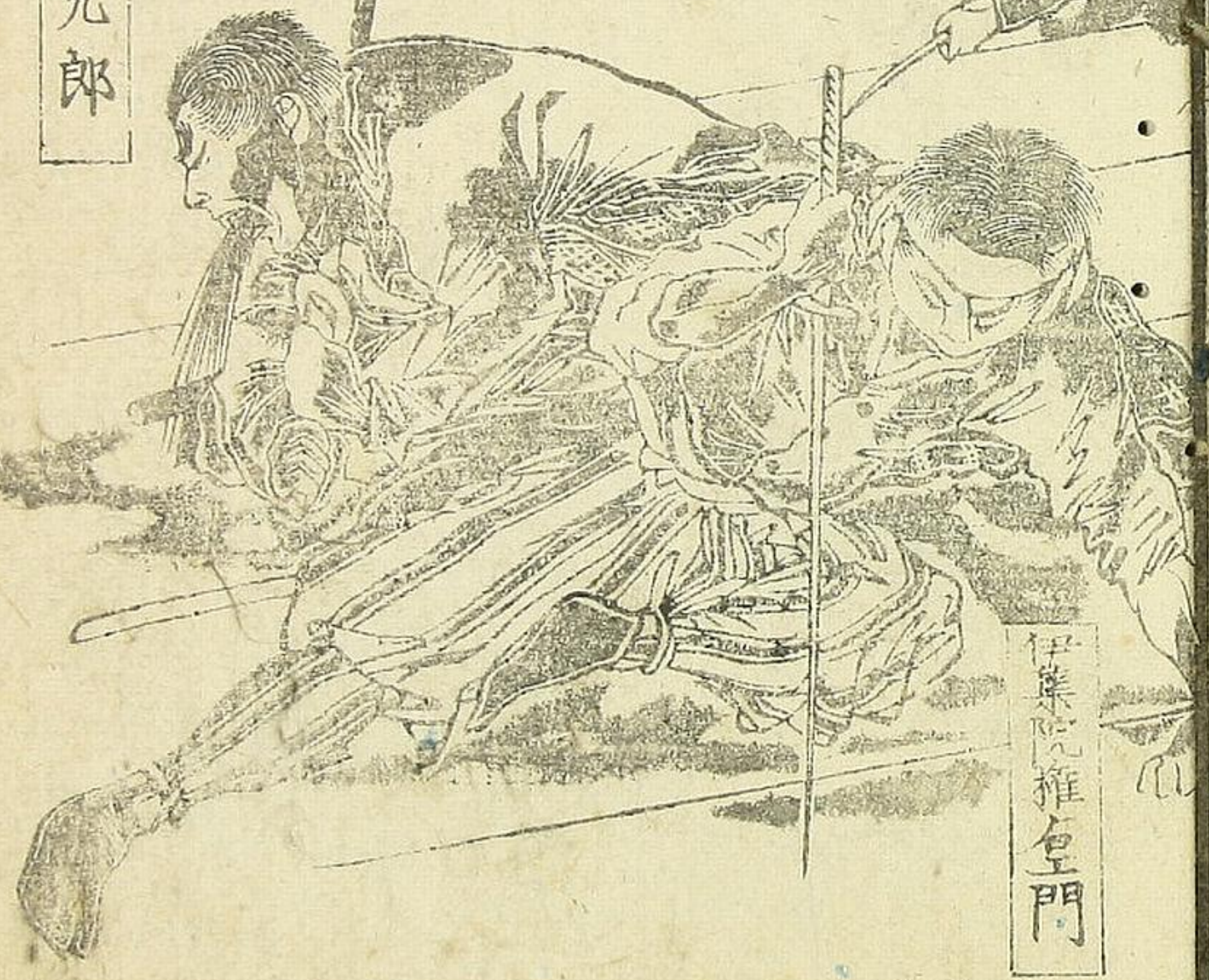


林昌之助

建論の輩懐死

徳久幸治郎

石井武之助といふ二
者、豪氣ありて徳久
へ砲術、石井へ鎗術、
長、江藤が先
年暴卒の折も一方の
隊長となり、屢々官軍
と戦ひ、佐賀の
賊徒へ官軍の為
掃蕩せらるる
時、最期戦半
ヤリ後



伊集院権左門

別府九郎

尾見の真之丞

徳久幸治郎
石井武之助

鹿兒嶋
へ遁ま

行同縣下

潜み居

今般西郷

隆盛

暴挙と

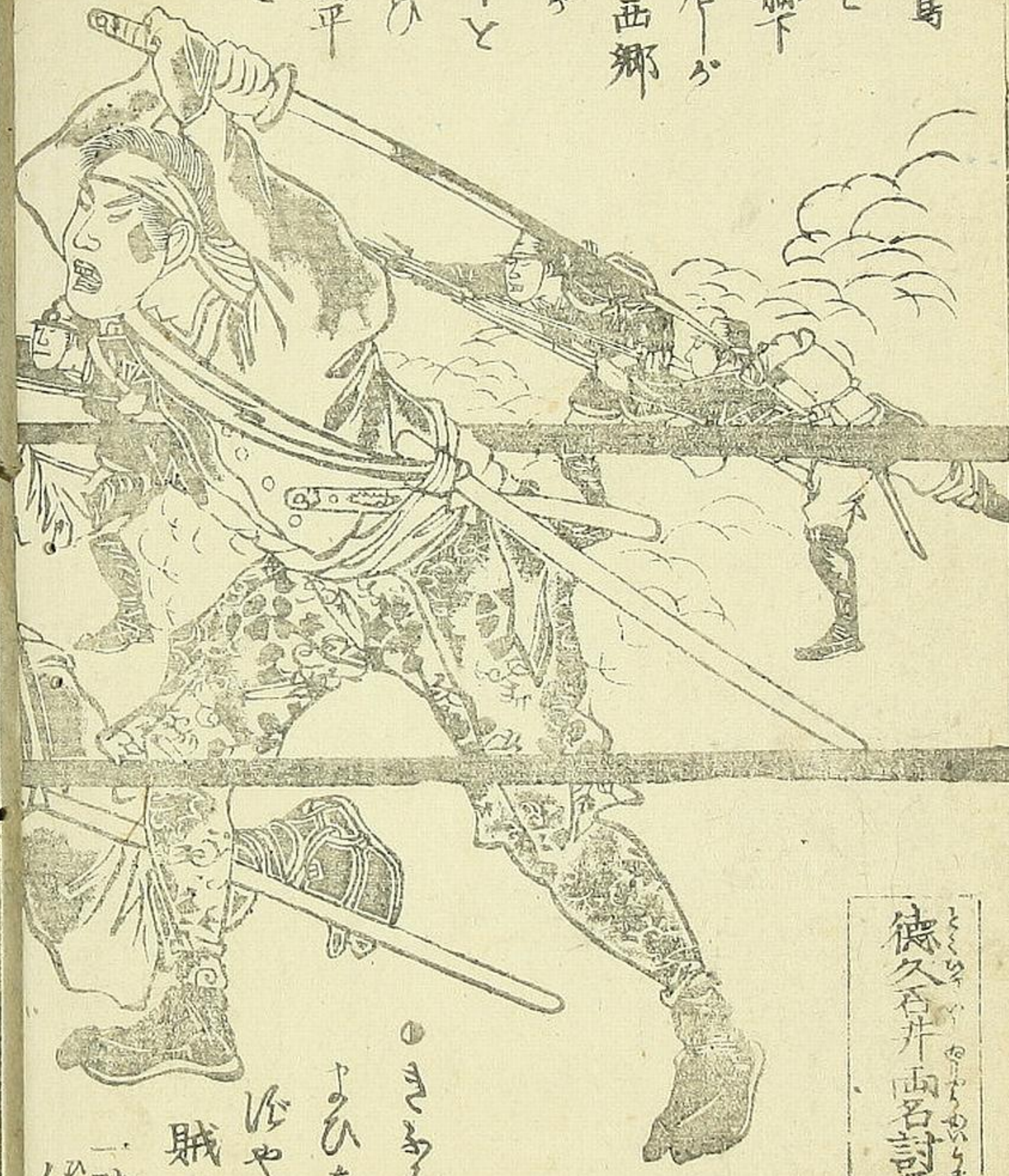
さしこひ

叔父新平

の怨

と報

と一



徳久石井両名討死

まある

よひあら

俗や扱

賊軍ハ

一時
人吉

千三 徳久幸治郎

百人の

兵と引て

官軍ハ

向ひ各所

連戦を

中々此頃

鹿兒嶋

縣下の激

戦ハ両名遂

討死

あなる

実目



地方ハ

撃入らん

と日向

霧嶋

近傍

の

山間

石井武之助

隙

窺ひ

策と轉ト

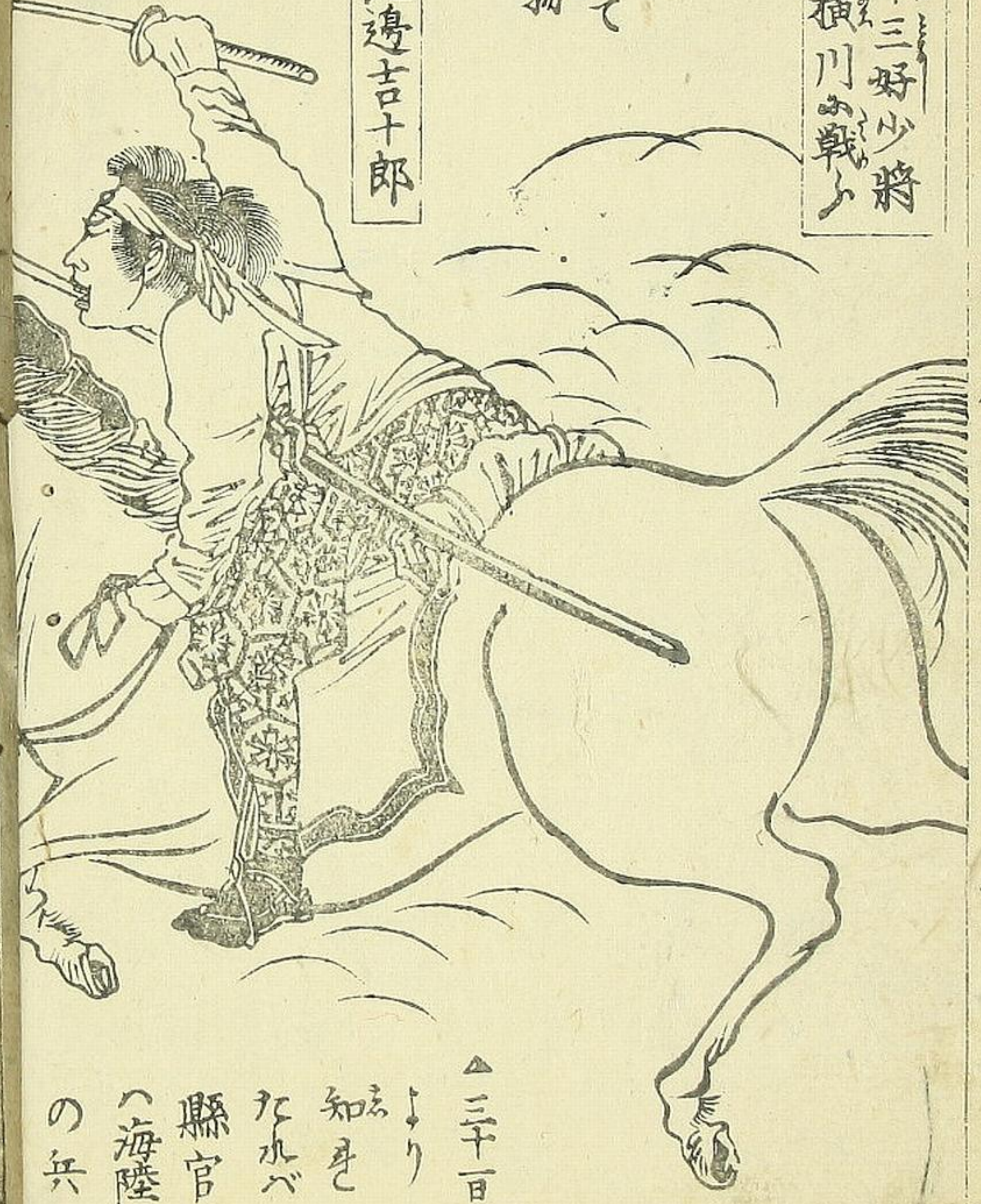
唐貞宣鑑定録

賊軍三好少將
隊と横川の戦ふ

大隅
の桑原
郡を撃つて
出で死物

狂ひの
猛威
池邊吉十郎

三好少將
の隊と
始羅郡



△三千日
より
知身
たかバ
縣官
へ海陸
の兵

の横川
の戦ひ
て是と
破り
溝邊
加治木の
間と駈枝
けて山田より
鹿兒島へ
突入一か
此形勢ハ
早々



其防ぎ
とむきや否と
照會せられ
地を散在して保護の
道十分ハ整ひ難
からん事故餘
あく人民ハ

三好少將

八月

群馬縣下甘樂郡

010190507896

立退し達せらるる廳中の百
 事々纏め動静を窺ひ
 お果て賊徒の追々進入の
 景况を三好少將の隊
 其餘の海陸より
 城下小倉
 守禦の備
 と設らるる小賊
 忽ち城下小撃入り盛不
 他戦はるるあり縣官に長寄不
 列揚らるる各隊に携るる指賊徒と戦はるる由其

桐野利秋
 激烈あるべ
 所謂殘燈
 の消るん
 とて一度
 光を放つ
 譬まひと
 却て平定
 の期
 小撃

死の奮
 戦に極めて

逸見十郎太
 あるま
 ありん

静齋編輯共画

